

2024 年度 入学試験問題

国 語

(1 科目 100 点 50 分)

2024 年 2 月 6 日 (火) 1 時限目実施

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この注意事項は、よく読んでください。
3. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
4. 次のことには十分注意してください。
  - ① 解答用紙には、受験番号を記入することを忘れないこと。
  - ② 答えはすべて解答用紙に記入すること。
  - ③ 不正行為はしないこと。

解答については、間違いのないように十分注意し、記入してください。

東 奥 義 塾 高 等 学 校

□一

放送をよく聞いて、問いに答えなさい。  
※メモを取ってもかまいません。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、解答にあたっては句読点や記号も一字として数えることとします。

前世紀の終わりから今世紀の初めにかけて、ボクはニューヨークで暮らしました。知人一人いない街に飛びこんだのですから、当初は崩れ落ちそうになるほどの孤独にさいなまれました。「A」三年近くもの間、あの街でやってこられたのは、数人の友人ができたお陰だっ  
たと思います。結果的には日米混成のバンドを組め、ニューヨークのaいくつかのライブハウスで歌えたことは良い思い出になっていま  
す。ただ、人は調子に乗るもので、やっているうちに欲が出てきて、ニューヨークで結成したこのバンドを日本でデビューさせようとい  
話になりました。

問題はベージストでした。彼はアメリカ人だったので、日本での彼の居住や\*<sub>i</sub>査証をめぐってさまざまな問題が起きました。「B」  
日本で暮らす覚悟を決めてくれたベージストに対し、ボクらは深く感謝をしました。彼が来日してすぐ、知っている寿司店に連れていった  
のも、歓迎の気持ちからです。

そこで①言葉に関し、とても印象的なことが起きました。

ベージストにとって、日本の本格的な寿司店に入るのは初めてのこと。カウンター席に座った彼はなにを注文していいかわからず、ガラ  
スの保冷ケースに入った寿司ネタを②おずおずと指さします。ボクはbいちいち、それはカンパチというんだよ、それはハマチ、それはサ  
バ、それはアジ、といった具合に魚の名前を言っていました。

彼はずいぶんと食べました。回転寿司ではないので大奮発です。でも、「おいしい」と日本語で連発してくれたので、こちらの気分も盛り  
上がりました。ところが、寿司店を出てしばらく歩いてから、ベージストはいきなりこう言ったのです。

「なんで日本人は、魚にいちいち名前をつけるんだよ？」

ボクは「え？」と聞き返しました。その時の彼の反応がこうです。

「フィッシュ・イズ・フィッシュ（魚は魚だろ）」

次回からは回転寿司でいいやと思いましたが、つまり彼は、寿司ダネの区別がついていなかったのです。魚は魚でしかなかったのです。

たしかに、アメリカ人は日本人ほど魚の種類を知りません。ニューヨークの寿司レストランでも、経営者が日本人ではない場合は、カン  
パチやハマチやツムブリを一緒くたにイエローテール、マグロもカツオもまとめてツナと言っている店がほとんどです。多くのアメリカ人

にとつては、③イエローテールという魚は存在しても、カンパチやハマチは存在しないのです。ましてやそのハマチが成長具合によつてワラサやブリと名が変わる出世魚だなんて、説明したところで「？」という表情になるだけです。

日本人は、生き物の名前を細かく知っているという点で、おそらく世界一の民族ではないでしょうか。魚の名前もそうですし、虫の名前や花の名前もそうです。ちなみにこのベアシストは東部の名門大学の生物学科を卒業していますが、カブトムシもクワガタムシもカミキリムシも全部まとめてビートルと言います。区別をつけないのです。

日本人の男性なら、クワガタの国産種のすべて、カミキリムシも五つ六つは名前を知っていることだと思えます。最低でも、シロスジカミキリとゴマダラカミキリの区別くらいはつくはずですが。でも、日本のように虫や魚を愛する伝統がない欧米では、虫に対して二、三の言葉しか浮かばない人が一般的です。『昆虫記』のジャン・アンリ・ファールブルがフランス本国では必ずしも有名人ではないように、虫に対する情熱を他国で探すのはなかなか難しいことなのです。

このベアシストの一件は、言葉とはなにか？という問いかけに対して、ほとんど答えにも近いようなヒントを与えてくれているように思えます。

人間は区別がつかないものに対しては、呼び名を持ち得ません。区別がついている事象じしやうに対してのみ、呼び名を持つのです。

その考えをあてはめると、感情に対して三つの言葉しか持てない人は、三つの感情しか区別がついていないと言えます。嫌悪けんおの感情が全部「むかつく」になってしまうのであれば、その人にとってはたった一種類の怒りしか存在しないこととなります。逆に、揺れ動く心に対して百の描写ができるなら、その人はそれだけの心の姿の区別がつかうのです。

言語とはすなわち、区別がつかうかどうか。差異に根ざした表現なのです。

出典 ドリアン助川『プチ革命 言葉の森をそだてよう』

※1査証……ビザのこと。外国に入学したりそこで働いたりするときに必要になる。

問一 空欄【A】【B】にあてはまる語句として最も適当なものを、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。  
ただし、同じ記号を二回以上使ってははいけません。

ア それなら    イ それだけに    ウ それでは    エ それとも    オ それでも

問二 二重傍線部 a 「いくつかの」、b 「いちいち」が修飾している箇所を、それぞれ一文節でそのまま抜き出して答えなさい。

問三 傍線部①「言葉に関し、とても印象的なこと」とありますが、それはどのようなできごとでしたか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 日本に来たばかりのアメリカ人が、日本語で「おいしい」と何度も言ったこと。  
イ カンパチ、サバなど、寿司ダネの種類を細かく教えなくてはいけなかったこと。  
ウ アメリカでも寿司店はあるのに、ベークシストが寿司ダネの名前を知らないこと。  
エ ベークシストに、どうして日本人は魚に細かく名前をつけるのかと聞かれたこと。

問四 傍線部②「おずおずと指さします」とありますが、このときの様子を次のようにまとめました。【I】にあてはまる言葉を本文中から十五字以内でそのまま抜き出して答えなさい。また、【II】には適切な内容を、十字以内で考えて書きなさい。

初めて入った日本の本格的な寿司店で 【I】、【II】寿司を注文している様子。

問五 傍線部③「イエローテール」という魚は存在しても、カンパチやハマチは存在しない」とは、どういうことですか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア アメリカではカンパチやハマチがとれず、それに近いイエローテールという種の魚がとれるということ。  
イ アメリカ人にとってカンパチとハマチの違いはささいなもので、普段は気にしていないということ。  
ウ アメリカ人が経営する寿司店では合理性のため、似た魚を同じ寿司ネタとして提供しているということ。  
エ アメリカ人はカンパチとハマチの区別をせず、それらをまとめて同じ魚として認識しているということ。

問六 本文を読んである学級で話し合いをしました。次は天野さんのグループで話し合っている様子です。Ⅰにあてはまる言葉を本文中から五字でそのまま抜き出して答えなさい。また、Ⅱには適切な内容を、二十五字以内で考えて書きなさい。

藤田 カブトムシもクワガタムシも全部ビートルでひとくくりにする人がいるというのは面白かったね。

天野 小学生のころ虫捕りに夢中だった僕からすると信じられないけど、その人たちにとってはカブトムシもクワガタムシも全部同じように見えてるってこと？

佐川 そうではなくて、形が違うのは見てわかるけど、意識のうえでそれらのⅠわけではないのだろうか。

藤田 そうだね。たしかに、角が何本あるかとか、どの位置についているかとかは、気にしない人からすると大した問題じゃないから、全部同じ虫ということになるんだろう。

天野 そうか。ものや感情は最初から別々のものとして存在していてそれを言葉で表現しているのではなくて、Ⅱということだね。

佐川 そういうことだね。言葉が発せられるのは、ものや感情が先にあるのではなく、似たようなものⅠことが先ということだね。

〔三〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、解答にあたっては句読点や記号も一字として数えることとします。

久しぶりに故郷に帰ることになった「私（津島修治）」は、津軽各地を旅して懐かしい人々に再会する。中でも最も会いたかったのが、かつて「私」の子守りをしてくれた「越野たけ」である。「私」は方々聞き歩いて、たけの家を探し当てるが、子どもの運動会に出かけたそう留守である。「私」は運動会の場所を聞いてそこにも行ってみるが、人が多すぎてたけを見つけ出せない。帰り際、あきらめきれずにもう一度たけの家の前に行った「私」は、入り口が少し開いていることに気づく。家には腹痛の薬をとりに来たというたけの娘がいて、「私」が名乗ると笑顔を見せ、たけのもとに案内してくれた。

おなかをおさえながら、とつとつ私の先に立って歩く。また畦道あぜみちをとおり、砂丘に出て、学校の裏へまわり、運動場のまんなかを横切つて、それから少女は小走りになり、一つの掛小屋へはいり、すぐそれと入れ違いに、たけが出て来た。①たけは、うつろな眼をして私を見た。

「修治だ。」私は笑つて帽子をとつた。

「あらあ。」それだけだった。笑いもしない。まじめな表情である。でも、すぐにその②硬直の姿勢を崩して、さりげないような、へんに、あきらめたような弱い口調で、「さ、はいって運動会を。」と言つて、たけの小屋に連れて行き、「ここさお坐りすわになりませえ。」とたけの傍そばに坐らせ、たけはそれきり何も言わず、きちんと正座してその＊モンペの丸い膝にちゃんと両手を置き、子供たちの走るのを熱心に見ている。けれども、私には何の不満もない。まるで、もう、安心してしまっている。足を投げ出して、ぼんやり運動会を見て、胸中に、一つも思う事が無かった。もう、何がどうなつてもいいんだ、というように全く無憂無風の情態じょうたいである。平和とは、こんな気持の事言うのであろうか。もし、そうなら、私はこの時、生れてはじめて心の平和を体験したと言つてもよい。先年なくなった私の生みの母は、気品高くおだやかな立派な母であつたが、このような不思議な安堵感あんどを私に与えてはくれなかつた。世の中の母というものは、皆、その子にこのような甘い放心の憩いを与えてやっているものなのだろうか。そうだったら、これは、何を置いても親孝行をしたくなるにきまつている。そんな有難ありがたい母というものがあつながら、病氣になつたり、なまけたりしているやつやつの気が知れない。③親孝行は自然の情だ。倫理ではなかつた。【ア】

たけの頬は、やっぱり赤くて、そうして、右の眼蓋まぶたの上には、小さい罌粟粒あわつごほどの赤いほくろが、ちゃんとある。髪には白髪もまじつているが、でも、いま私のわきにきちんと坐っているたけは、私の幼い頃の思い出のたけと、少しも変わっていない。あとで聞いたが、たけが私の家へ奉公に来て、私をおぶつたのは、私が三つで、たけが十四の時だったという。それから六年間ばかり私は、たけに育てられ教えられたの

であるが、けれども、私の思い出の中のたけは、決してそんな、若い娘ではなく、いま眼の前に見るこのたけと寸分もちがわらない老成した人であった。これもあとで、たけから聞いた事だが、その日、たけの締めていたアヤメの模様の紺色の帯は、私の家に奉公していた頃にも締めていたもので、また、薄い紫色の※<sub>2</sub>半襟も、やはり同じ頃、私の家からもらったものだという事である。そのせいもあつたのかも知れないが、たけは、私の思い出とそっくり同じ匂いで坐っている。たぶん鼻目ひなめであるうが、たけはこの漁村の他の※<sub>3</sub>アバ（アヤの Female）たちとは、まるで違った気位まじりを持つているように感ぜられた。着物は、縞しまの新しい手織木綿ておりもめんであるが、それと同じ布地のモンペをはき、その縞柄は、まさか、いきではないが、でも、選択がしっかりしている。おろかしくない。全体に、何か、強い雰囲気を持つている。私も、いつまでも黙っていたら、しばらく経ってたけは、まっすぐ運動会を見ながら、肩に波を打たせて深い長い溜息ためいきをもらした。たけも平気ではないのだな、と私にはその時はじめてわかった。でも、やはり黙っていた。

たけは、ふと気がついたようにして、

「何か、たべないか。」と私に言った。

「要らない。」と答えた。本当に、何もたべたくなかった。

「餅があるよ。」たけは、小屋の隅に片づけられてある重箱に手をかけた。

「いいんだ。食いたくないんだ。」

たけは軽く首肯うなづいてそれ以上すすめようともせず、

「餅のほうでないんだものな。」と小声で言つて微笑んだ。三十年ちかく互いに消息が無くても、私の酒飲みをちゃんと察しているようである。不思議なものだ。私がにやにやしていたら、たけは眉をひそめ、

「たばこも飲むのう。さつきから、立てつづけにふかしている。たけは、お前に本を読む事だば教えたけれども、たばこの酒だのは、

※<sub>4</sub> 教えねきやのう。」と言つた。【イ】

私が真面目な顔になつてしまつたら、こんどは、たけのほうで笑い、立ち上つて、

「竜神様りゅうじんさまの桜さくらでも見に行くか。どう？」と私を誘つた。

「ああ、行こう。」

私は、たけの後について掛小屋のうしろの砂山に登つた。砂山には、スマレが咲いていた。背の低い藤の蔓つるも、這はい拵びらがつている。たけは

黙つてのぼつて行く。私も何も言わず、ぶらぶら歩いてついて行つた。砂山を登り切つて、だらだら降りると菟神様の森があつて、その森の小路のところどころに八重桜が咲いている。たけは、突然、ぐいと片手をのばして八重桜の小枝を折り取つて、歩きながらその枝の花をむしつて地べたに投げ捨て、それから立ちどまつて、勢いよく私のほうに向き直り、にわかには、堰を切つたみたいに能弁になつた。「ウー」

「久しぶりだなあ。はじめは、わからなかつた。金木の津島と、うちの子供は言つたが、まさかと思つた。まさか、来てくれるとは思わなかつた。小屋から出てお前の顔を見ても、わからなかつた。修治だ、と言われて、あれ、と思つたら、それから、口がきけなくなつた。運動会も何も見えなくなつた。三十年ちかく、たけはお前に逢いたくて、逢えるかな、逢えないかな、とそればかり考へて暮していたのを、こんなになつた大人になつて、たけを見たくて、はるばると小泊までたずねて来てくれたかと思つと、ありがたいのだから、うれしいのだから、かなしいのだから、そんな事は、どうでもいいじゃ、まあ、よく来たなあ、お前の家に奉公に行つた時には、お前は、ばたばた歩いてはころび、ばたばた歩いてはころび、まだよく歩けなくて、ごはんの時には茶碗を持つてあちこち歩きまわつて、庫の石段の下でごはんを食べるのが一番好きで、たけに昔囁語らせて、たけの顔をどつくと思ながら一匙ずつ養わせて、手かずもかかつたが、愛こくてのう、それがこんなにおとなになつて、みな夢のようだ。金木へも、たまに行つたが、金木のまちを歩きながら、もしやお前がその辺に遊んでいないかと、お前と同じ年頃の男の子供をひとりひとり見て歩いたものだ。よく来たなあ。」と一語、一語、言うたびごとに、④手にしている桜の小枝の花を夢中で、むしり取つては捨て、むしり取つては捨てている。【エ】

「子供は？」とうとうその小枝もへし折つて捨て、両肘を張つてモンペをゆすり上げ、「子供は、幾人。」

私は小路の傍の杉の木に軽く寄りかかつて、ひとりだ、と答えた。

「男？ 女？」

「女だ。」

「いくつ？」

次から次と矢継早に質問を發する。私はたけの、そのように強くて不遠慮な愛情のあらわし方に接して、⑤ああ、私は、たけに似ているのだと思つた。きょうだいの中で、私ひとり、粗野で、がらつぱちのところがあるのは、この悲しい育ての親の影響だつたという事に氣附いた。私は、この時はじめて、私の育ちの本質をはつきり知らされた。私は断じて、上品な育ちの男ではない。

※1 モンペ……戦時中の女性に普及した、袴はかまをズボンに近い形にした作業用ボトムス。

※2 半襟……着物の下に着る「長襦袢ながじゆばん」という下着につける襟。

※3 アバ (アヤの *Femme*) ……津軽弁でアバはお母さん・おばさん・おばあさん年代の女性、アヤはお父さん・おじさん年代の男性を意味する。*Femme* はフランス語で女性のこと。

※4 教えねきゃのう……津軽弁。教えなかったわよねえ、といった意味。

※5 昔噺……津軽弁で昔話のこと。

※6 愛ごくてのう……津軽弁。可愛くてねえ、といった意味。

問一 傍線部①「たけは、うつろな眼をして私を見た」とありますが、それはなぜですか。三十字以内で答えなさい。

問二 傍線部②「硬直の姿勢」とはどのような様子ですか。その様子が具体的に表現された箇所を、連続する二文で抜き出しなさい。

問三 傍線部③「親孝行は自然の情だ」とありますが、「私」はなぜそのようなように感じたのですか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 世の中の母が皆、その子にこのような甘い放心の憩いを与えているものだとしたら、何を置いても親孝行をしたくなるにきまっているから。

イ まっすぐ運動会を見ながら、肩に波を打たせて深い長い溜息をもらしたたけに、たけも平気ではないのだなどその時はじめて気づいたから。

ウ たけの強くて不慮な愛情のあらわし方に接して、私はたけに似ているのだと思い、亡くなった母の代わりに親孝行しようと決心したから。

エ どれだけ久しぶりの再会であっても母は心の平穏を与えてくれる存在なのだから、子どもが成長したらそのお返しをすべきだと考えたから。

問四 次の一文は、本文中の【ア】く【エ】のどこに入れるのが適当ですか。最も適当な箇所を選び、記号で答えなさい。  
油断大敵のれいである。私は笑いを収めた。

問五 傍線部④「手にしている桜の小枝の花を夢中で、むしり取っては捨て、むしり取っては捨てている」とありますが、この動作には「たけ」のどのような心情が表れていますか。「たけ」の言葉を参考にして、感情を表す形容詞を三つ答えなさい。

問六 傍線部⑤「ああ、私は、たけに似ているのだ」という言葉から感じられる「私」の「たけ」への思いとして、**適当でないものを次のア**くエの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ただ横に座っているだけで、何がどうなってもいいと思えるような不思議な安堵を感じられる。
- イ 着物の柄の選択もしっかりとしており、この漁村の他の女性たちとは違った気位が感じられる。
- ウ 「たけ」の強くて不遠慮な愛情のあらわし方に、自分の本質がここにあるのだと気づかされた。
- エ きょうだい中で私だけ粗野でがらっぱちなのは、この育ての親の影響だと考えると悲しくなる。

〔問題は次のページにつづきます〕

四 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、解答にあたっては句読点や記号も一字として数えることとします。

※1 相模守時頼の母は、※2 松下禅尼とぞ申しける。守を入れ申さるる事ありけるに、煤けたる明り障子の破ればかりを、禅尼、手づから、

相模守時頼様を庵室にお招きになったときに

小刀して切り廻しつつ張られければ、兄の※3 城介義景、その日のけいめいして候ひけるが、「給はりて、某男に張らせ候はん。

その日の接待役をおおせつかっていたのだが、「私に任せてください。某という男がいるので彼に張らせましょう。

① さやうの事に心得たる者に候ふ」と申されければ、「その男、② 尼が細工によも勝り侍らじ」とて、a なほ、一聞づつ張られけるを、義景、

「皆を張り替へ候はんは、遙かにたやすく候ふべし。斑らに候ふも見苦しくや」と重ねて申されければ、「尼も、後は、さはさへと張り替へ

まだち模様で見苦しくありませんか。

きれいさっぱりと張り替え

んと思へども、今日ばかりは、③ わざとかくてあるべきなり。物は破れたる所ばかりを修理してb もちある事ぞと、④ 若き人に見習はせて、  
ようと思うけれども

心づけんためなり」と申されける、いと有難かりけり。

なんと殊勝なことだろう。

出典 兼好法師『徒然草』

※1 相模守時頼……鎌倉幕府五代目執権北条時頼。

※2 松下禅尼……北条時氏の妻で時頼の母。

※3 城介義景……秋田城次官で禅尼の兄。

問一 傍線部①「さやうの事」とは、どういうことですか。十五字以内で答えなさい。

問二 傍線部②「尼が細工によも勝り侍らじ」の口語訳として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 私の技では上手く張れないだろう。
- イ 職人の張り方になうわけがない。
- ウ 私の手際にはかなわないでしょう。
- エ あなたの器用さには負けてしまう。

問三 二重傍線部 a 「なほ」、b 「もちある」を現代かなづかいに書き改めなさい。

問四 傍線部③「わざとかくてあるべきなり」とありますが、禅尼は「わざと」どうしたのでしょうか。次の文の空欄 I・II にあてはまる言葉をそれぞれ答えなさい。 I は五字以内、II は十字以内で答えなさい。

禅尼は、古くなった明かり障子を張り替える際に、 I を張り替えるのではなく、 II を張り替えるようにしたこと。

問五 傍線部④「若き人」とありますが、具体的には誰のことですか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 相模守時頼
- イ 松下禅尼
- ウ 城介義景
- エ 某男

問六 本文の内容について生徒たちが話し合った時の意見の中で、本文の要旨として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア この話は、何事も自ら手本を示さなければならぬと言っているね。
- イ 私は、政治は儉約の精神を土台にすべきだと言いたいのだと思うわ。
- ウ 僕は、物事は専門家に任せることが肝要だと言っているのだと思う。
- エ 若者は年長者の知恵や忠告に従うべきだということじゃないのかな。

〔五〕 次の各問いに答えなさい。

問一 次の①～⑥の傍線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに、それぞれ書き改めなさい。

- ① 彼は自分の感情をトロした。      ② 昔のオモカゲが残る写真だ。  
③ 銀行に今年のお年玉をアズける。  
④ 新たな展開を示唆する言葉。      ⑤ 今夜は天気が荒れて吹雪になる。      ⑥ 父の機嫌を損ねてしまう。

問二 次の①～⑥の熟語の構成として最も適当なものを、次のア～カの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。ただし、**同じ記号を二回以上使ってははいけません。**

- ① 飲食    ② 不安    ③ 重箱    ④ 国営    ⑤ 緩急    ⑥ 捕球

ア 上の字と下の字が主語と述語の関係となっているもの（例：頭痛）

イ 上の字が下の字を修飾しているもの（例：青空）

ウ 下の字が上の字の目的語や補語となっているもの（例：読書）

エ 上の字が下の字の意味を打ち消しているもの（例：無事）

オ 同じような意味の字を重ねたもの（例：森林）

カ 反対または対応の意味を表す字を重ねたもの（例：善悪）

問三 次の①～④の傍線部は、どのような動作を敬語にしたものですか。それぞれ敬語にする前の動詞を基本形で答えなさい。

（例：先生、そんなことをおっしゃらないください。 答→言う）

- ① 重要事項は、すでに部長から伺っております。  
② 三者面談の際には、私の父が学校へ参ります。  
③ 皆さん、どうぞ遠慮なく召し上がってください。  
④ ご覧になって、問題があれば指摘ください。

# 国語解答用紙

※印の欄には何も記入しないこと

一 13点

2 問一

4 問二

4 問三

3 問四

二 28点

2 × 2 問一 A

B

2 × 2 問二 a

b

3 問三

三 24点

4 問六 II

3 問五

3 問六 I

4 問四 II

3 問四 I

四 19点

3 問六

3 問三

4 問二

5 問一

3 問四

2 × 3 問五

五 16点

2 問五

3 問六

3 × 2 問四 I

II

2 問二

1 × 2 問三 a

b

五 16点

1 × 3 問三 ①

②

③

④

1 × 6 問二 ①

②

③

④

⑤

⑥

受験番号

※	合計	※	五	※	四 四問二三五六	※	四 四問一四	※	二 二問二五六	※	三 三問一	※	二 二問四二六二	※	二 二左記以外	※	一
---	----	---	---	---	-------------	---	-----------	---	------------	---	----------	---	-------------	---	------------	---	---

これから放送による聞き取りのテストを行います。  
はじめに、解答用紙を出して、受験番号を決められた欄に記入してください。

問 5秒

次に、問題用紙の1ページを開いてください。

問 2秒

四角1は、放送を聞いて質問に答える問題です。宮城道雄さんの随筆『音の世界に生きる』の一節を読み、次にその内容についていくつかの質問をします。文章は一回しか読みませんので、必要に応じてメモを取ってもかまいません。約一分後に開始しますので、問題用紙や解答用紙に不備があった場合には、試験監督に申し出て交換してください。

問 1分

それでは、始めます。

問 2秒

私は、生れて二百日くらいから眼の色が違っていったそうであるが、それが七つの頃から段々見えなくなった。その為に学校に上れなかったが、それが当時の私には何より残念だった。(中略)が、結局諦めねばならなかったので、九つの月から筆を習いはじめた。音楽は元来非常に好きだったので、聞さえあれば筆に向っていた。しかしその頃は——そしてずっと後年まで、やはり時には、眼が見えたらなあと思ってしまうようなこともないではなかった。

だが、しかし今日では、年も取ったせいであろうが、眼の見えぬことを苦にしなくなった。時々自分が眼の悪いということを忘れていたことさえある。「ああ、そうそう、自分は眼が見えなかったんだな」と気がつくようなことがしばしばある。というのは、物事は慣れてしまうと、案外不自由がないものだから、私なども家の中のことなら大抵、人の手を借りることなしにやれる。それだけにまた一しお、この耳とそして手の感触をありがたいものと思うのである。

私は、眼で見る力を失ったかわりに、耳で聞くことが、殊更鋭敏になったのである。普通の人には聞こえぬような遠い音も、またかすかな音も聞きとることができる。そして、そこに複雑にして微妙な音の世界が開かれるので、光や色に触れぬ淋しさを十分に満足させることができる。そこに私の住む音の世界を見出して、安住しているのである。

(中略)

先天的の失明でなかったから、私には色というものの記憶が少しはあって、作曲するにはやはりその色を思い出す。はっきりは出ないが、何かやはり眼に浮かんで来るものがある。それと音とが一緒になるのである。どうとって具体的にはいえないが、音にもやはり色はあるもので、あの西洋の作家なんかでも、ドレミファをそれぞれ自分の頭の中でいろいろ勝手に色を出している人があるそうだし、極く普通に黄色い声などというのもそれであると思ふ。

自然の音は、私共にとって最も親しいものである。風の音、雨の音、虫の音、小鳥の囀る声、何一つとして楽しくないものはなく、面白くないものはない。

同じ風でも、松風の音、木枯の音、また撫でるような柳の風、さらさらと音のする笹の葉など、一つ一つに異った趣きのあるものである。

私は雨の音が殊に好きである。とりわけ春の雨はよいもので、軒から落ちる雨だれの音などきいてみると、身も心も引き入れられてしまうような感じがする。

虫の音にも、まつむし、鈴虫、くつむし、それぞれ趣きがあってよい。秋の夜長を楽しませてくれるこれ等の小音楽師達に、私は心からの感謝を捧げたく思う。

私はまた、小鳥が好きで、都会の中に住んでいると、自然の森や林で自由に轉る鳥の音を聞かれぬことは淋しい。私は作曲に感興が湧いて、自然の音にひたりたいと思う時などは、いても立ってもいられない程、懐しい思いがする。

自然の音はまったく、どれもこれも音楽でないものはない、月並な詩や音楽に現わすよりも、自然の音に耳をかたむける方が、どれだけ勝れた感興を覚えるか知れない。私たちがどんなに努力しても、あの一つにも勝れたものは出来ないであろう。

問 3秒

それでは質問にうつります。質問は二回繰り返します。解答は全て解答用紙の決められたところに記入してください。

問 3秒

問一 筆者が九つの時に習い始めた楽器は何ですか。次の1・2・3・4の中から一つ選び、数字で答えなさい。

1 鼓                    2 琵琶                    3 箏                    4 三味線

問一 筆者が九つの時に習い始めた楽器は何ですか。次の1・2・3・4の中から一つ選び、数字で答えなさい。

1 鼓                    2 琵琶                    3 箏                    4 三味線

問 15秒

問一 「家の中のことなら大抵、人の手を借りることなしにやれる。」という筆者がありがたく思うものが二つあり、一つは「耳」です。もう一つを答えなさい。

問二 「家の中のことなら大抵、人の手を借りることなしにやれる。」という筆者がありがたく思うものが二つあり、一つは「耳」です。もう一つを答えなさい。

**問 15秒**

問三 筆者が最も親しみを覚え、その一つ一つをすぐれた音楽だと述べているのは、何の音ですか。

問四 筆者が最も親しみを覚え、その一つ一つをすぐれた音楽だと述べているのは、何の音ですか。

**問 20秒**

問四 この文章の内容に合わないものを、次の1・2・3・4の中から一つ選び、数字で答えなさい。

1 筆者は眼で見る力を失ったかわりに、耳で聞くことが、殊更鋭敏になった。

2 筆者には色の記憶が少しあり、作曲するときにその色が眼に浮かんで来る。

3 筆者は春の雨の音が好きで、身も心も引き入れられてしまうように感じる。

4 筆者は秋の夜長を楽しませる虫の音は好きだが、小鳥の囀りは苦手である。

問四 この文章の内容に合わないものを、次の1・2・3・4の中から一つ選び、数字で答えなさい。

1 筆者は眼で見る力を失ったかわりに、耳で聞くことが、殊更鋭敏になった。

2 筆者には色の記憶が少しあり、作曲するときにその色が眼に浮かんで来る。

3 筆者は春の雨の音が好きで、身も心も引き入れられてしまうように感じる。

4 筆者は秋の夜長を楽しませる虫の音は好きだが、小鳥の囀りは苦手である。

**問 15秒**

これで放送によるテストを終わります。あとの問題が続けて解答してください。